

## うだ・まるごと古民家博物館

NPO 法人 明治・大正・昭和初期の古民家を大切にする会 理事長 ○栗野圭司

### 1. 活動方針・目的

方針：地域の特徴・歴史・風土の色を残す有意義な民家を「登録古民家」として、登録し、保存・公開することにより、観光資源として活用すること。

目的：登録された「登録古民家」は、広く公開することにより都市と山村が交流・活性化することになり、このことは、すなわち、疲弊している地域経済に貢献することに繋がる。

### 2. 活動内容

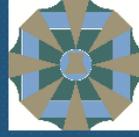
本活動は、平成 18 年の旧榛原町内の古民家調査に端を発した事業で、宇陀の公開古民家めぐり事業として、古民家を活用提案されたものである。平成 22 年には調査範囲をさらに拡大して宇陀地域全体となり、その中から計 53 件の古民家を公開古民家めぐりとして事業化したものである。この事業は平成 24 年 10 月 21 日から同年 10 月 31 日まで 11ch 宇陀放送にて市内に放映された。また、紹介された民家は、今年 1 月発行書籍「日本民家のつくりと農山村文化」で紹介。さらに、スポット事業として、昨年 10 月には宇陀市（旧室生地区）から移築された旧岩本家住宅で「大正レトロ生活体験館 in 旧岩本家住宅」にて大正時代の生活を再現したイベントを開催し、盛況裡に終えた。本年度で 10 目を迎える。今後も新たな付加価値を検討し、拡大を期待している。

### 3. 他の活動団体の参考となる事例

公開古民家めぐりを運用するにあたっては、要領、安全対策、案内人、事務局、世話役など、具体的な運用に向けたガイドラインを検討した。また、参加する古民家の所有者への経費面での援助など、地域住民への十分な配慮が必要なこと、また、案内人の研修などが検討された。さらに、新たな観光ルートの創設も検討した。また、既存の物産販売店、公衆トイレを視野に入れたルートとの兼ね合いにも留意すべきことが検討された。

### 4. 今後の課題等

宇陀地域の登録された古民家は 53 件であるが、今後、地域をブロック単位とする登録古民家を増加して、地域の観光資源として活用したい。これには、さらなる登録古民家制度の普及拡大が必要とされる。また、民家所有者への支援が求められる



# うだ・まるごと古民家博物館 の取り組み

NPO法人

明治・大正・昭和初期の古民家を大切にする会

発表者・理事長 栗野圭司



## 1・活動の概要

本活動は、平成18年の旧榛原町内の古民家調査に端を発した事業で、宇陀の公開古民家めぐり事業として、古民家の活用提案されたものである。平成22年には調査範囲をさらに拡大して宇陀地域全体となり、その中から計53件の古民家を公開古民家めぐりとして事業化したものである。昨年1月発行書籍「日本民家のつくりと農山村文化」紹介。さらに、スポット事業として、昨年10月には宇陀市(旧室生地区)から移築された旧岩本家住宅で「大正レトロ生活体験館in旧岩本家住宅」にて大正時代の生活を再現したイベントを開催し、盛況裡に終えた。本年度で10年迎える。今後も新たな付加価値を検討し、拡大を期している。



## 2・活動の目的

地域の特徴・歴史・風土の色を残す有意義な民家を保存・公開することにより、観光資源として活用することで、都市と山村が交流・活性化することになり、このことは、すなわち、疲弊している地域経済に貢献することに繋がる。

目標：年間経済効果は2000万円。



## 3・録古民家看板地図

曾爾村今井公園



## 4・録看板



## 5・問者への説明風景



## 6・正レトロ生活体験館



## 7・一事業アピール

近年地域に点在する優れた古民家を地域資源として活用することは、

1. 都市と地域の交流促進をし、過疎過密の緩和効果(政治的効果)
2. 資金・物資の流動化効果(経済的効果)



8・まちづくりへの貢献度と波及効果  
地元の地域資源を再発見でき、これにより地元への絆と愛着心が醸成される。民家めぐりにより、ルート沿線に飲食店の開店や、トイレの美化整備などこれまでになかった動きが見られる。ここに新たな観光産業の創出が今後も期待される。

### 9・先進性・先導性

範囲な地域に点在する価値ある古民家を、一つのテーマ「うだ・まるごと古民家博物館」で括り事業化した点。

